

第7回教育委員会臨時会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称		教育委員会第7回臨時会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和元年7月31日 午前9時
開催場所		807・808会議室
出席者	委員	三田 一則（教育長）、北川 英恵（教育長職務代理者）、白倉 章、 藤原 孝子、樋口 郁代
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導 課長、統括指導主事2名、指導主事
	事務局	庶務課庶務グループ係長、指導課庶務・事業グループ係長、庶務課庶務 グループ主事、指導課庶務・事業グループ主事
公開の可否		一部公開 傍聴人 26人
非公開・一部公開 の場合は、その理 由		報告事項第1号、第2号は人事案件のため非公開とする。
会議次第		第31号議案 豊島区立学校教科用図書採択について（審議） （指導課） 報告事項第1号 令和元年8月1日付 教職員の異動について （指導課） 報告事項第2号 令和元年8月1日付 教職員の異動について （指導課）

事務局)

本日は委員の皆様、全員おそろいでございます。

傍聴希望者が26名ございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

(1) 報告事項第1号 令和元年8月1日付教職員の異動について

三田教育長)

ただ今から第7回教育委員会臨時会を開催いたします。

署名委員を申し上げます。藤原委員、北川委員、どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、傍聴希望者がいるということですが、本日予定している案件に人事案件がございますので、そちらを先に行いたいと思います。まず、報告事項の第1号、令和元年8月1日付、教職員の異動について、宜しくお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項第1号了承)

三田教育長)

ありがとうございます。

(2) 報告事項第2号 令和元年8月1日付教職員の移動について

三田教育長)

それでは、続きまして、報告事項の第2号、令和元年8月1日付の教職員の異動について、宜しくお願いいたします。

人事案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項第2号了承)

三田教育長)

それでは、ただ今、傍聴が26名いらっしゃるということでございますが、承認して宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、傍聴者の入室をお願いいたします。

<傍聴者入場>

(3) 豊島区立学校教科用図書採択について (審議)

三田教育長)

それでは、ただ今から教科用図書の審議に入りたいと思います。

それでは、事務局より傍聴者の皆様への諸注意をお伝えいただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

庶務課長、どうぞ。

＜庶務課長 注意事項説明＞

三田教育長)

では、どうぞ傍聴者の方、宜しく、このようなご協力をお願いいたします。

それでは、ただ今から令和2年度に使用する小学校教科用図書及び中学校教科書の審議を始めたいと思います。

それでは、配付資料の確認を、庶務課長よりお願いいたします。

＜庶務課長 資料説明＞

三田教育長)

それでは、説明が終わりましたので、次に教科用図書の審議に係るこれまでの経緯について、教育部長より説明をしていただきたいと思います。

＜教育部長 資料説明＞

三田教育長)

どうもありがとうございました。

今、教育部長の方から、調査部会並びに選定委員会の各委員がそれぞれに時間を割いて、これらの各出版された新しい教科書についての調査研究をしていただいて、資料2にまとめているということで、この審議の中で活用させていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、早速審議に入っていきたいと思いますが、審議に当たっての方法について、申し上げたいと思います。

既にご承知の通り、東京都への採択結果報告期限が本年の8月31日までの間は審議の過程にあると考えて、その内容については守秘義務が課せられておりますことから、これまでの教科書審議においては、教科書の会社名を伏せて審議を行ってまいりました。

しかしながら、審議内容がわかりづらいといった意見が多々寄せられているということもありまして、今回は、審議に当たっては教科書会社名を明らかにして審議をしたいと思っております。

本臨時会では、過半数を超えるものがあつたかどうかを確認して、審議結果については8月28日の臨時会で採択した会社名を確認したいと思いますが、このような運びで宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

ありがとうございます。

また、採決の方法につきましては、これまで通り公平で公正な採決を行うために、無記名投票によって行いたいと思いますが、これらについて宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

ありがとうございます。

確認させていただきました。

それでは、審議に当たっては、無記名投票とすることといたします。なお、投票の結果が分かれて過半数を超えるものがない場合は、投票数の多いものを尊重しつつ、再度審議の上、意思決定をしたいと思いますが、宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、以上のように決めさせていただきたいと思います。

それでは、初めに中学校使用教科書の審議に入りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

説明が終わりました。

ただ今、事務局から、中学校使用教科書に関する説明がありましたが、選定委員会からは調査部会による綿密な調査研究を経て、「前回採択時の調査資料から修正・変更はない」という報告でございますけれども、これらに関して委員の皆さんのご意見、ご質問を頂戴したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

前回の採択時のものから修正・変更はないという報告と、現場の方々が使っていて、このまま、もう一年使えるということであれば、これに基づき了承したいと思います。

以上です。

三田教育長)

そのようなご意見でございますが、他にございますか。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

今の藤原委員のご意見に賛成です。このまま継続して、令和2年度も使うことに了承いたします。

三田教育長)

ありがとうございます。

他にございますか。宜しいですか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、皆さんからご了解いただきましたので、この意見を踏まえて、令和2年度の

中学校使用教科書については、選定委員会の報告及び本区における4年間の使用実績に基づいて、投票を省略して、前回本区が採択した発行者の教科書全教科を一括して最良と判断したいと存じますが、これにご異議ございませんか。

(委員全員異議なし)

三田教育長)

ありがとうございます。異議なしと認めます。

それでは、そのように決定したいと思います。

採択結果の確認は、8月28日の臨時会において、事務局から改めて採択結果の一覧表の提出を受けて行いたいと存じます。

これで、中学校の使用教科書に関する審議を終わりにしたいと思います。

それでは続きまして、小学校の教科書の審議に入りしたいと思います。

審議の手順について、事務局から説明をいただきたいと思います。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

そのような手順で審議をするということですが、宜しいでしょうか。

(委員全員了承)

三田教育長)

それでは、選定資料の説明、そして、それに対する質疑と、教科書を手に取って見ていただいて投票するという事の中で、議論をしっかりとしてまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

それでは、早速、社会科の選定資料について、事務局より説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

それでは、説明が終わりました。

今の説明について、選定資料について、ご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

その教科資料の中には、領土問題についての記述が書かれていますが、そちらについての違いがあれば、どのような調査なのかということをお教えいただきたいです。

資料の中に、構成上の工夫で各社それぞれ領土問題についての取り扱いが書かれているかと思いますが、どのような違いがあるのかということ、あるいは全社共通しているのか等、ご説明をお願いします。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

領土問題に関する表記につきましては、選定資料の方にお示しさせていただき、本文に

書かれている記述をそのままお示しさせていただきました。

3社をそれぞれ調査したところ、3社について、大きな差はないという様に調査委員会から報告を受けております。

三田教育長)

ありがとうございます。

では、教育委員の方から、何か質疑はございますか。

樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

もし良ければ少しお時間をいただいて、教科書を実際に見たいと思います。

三田教育長)

それでは、調査資料についての説明に対してご質問があればということですが、なければ、皆様方に10分程度資料をご覧いただいて、それから議論したいと思いますが、宜しいでしょうか。

樋口委員)

是非、お願いします。

三田教育長)

では、宜しくどうぞお願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

もう少し時間が必要ですか。宜しいでしょうか。

樋口委員)

大丈夫です。

三田教育長)

いいですか。

それでは、それぞれご意見がありましたら、お受けをしたいと思います。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

委員の方に、ご協議いただく前に、先程ご説明させていただいた資料のところ、一部加えたいこと、それから修正のところがありますので、そこについてご説明をさせていただきたいのですが、宜しいでしょうか。

三田教育長)

はい、どうぞ。

指導課長)

先程、防災のところについて、説明をさせていただきましたけれども、私の方で説明が少し不十分だったところがございますので、ご説明させていただきます。

各社ともに防災について取り扱っております。東京書籍におきましては、浜松市のガイ

ドブックを使った形で説明をしております。

教育出版につきましては、静岡市のガイドブックを使って説明をしております。

日本文教出版社におきましては、東京都の「東京防災」を使った形でご説明をしております。

説明は以上でございます。

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、早速審議に入りたいと思います。

それでは、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

今回の社会科の教科書、学習指導要領につきましては、伝統文化等に関する内容ですとか、あるいは主権者の教育、主権者を育成するという観点、また防災・安全への対応、あと領土問題といたしますか、海洋や国土への理解、あと持続可能な社会を作るという、そういう観点からの改定がなされたというように受け止めています。

そういったことからすると、全て日本文教出版社も、東京書籍も、教育出版も、それぞれの改訂部分については、全て網羅されているという印象です。

やはり社会科は、課題意識の持てる構成になっているかということが、非常に重要だと思っていまして、私はその観点から見させていただきました。

やはり、その他につきましても、3社とも学習問題がそれぞれ記載されていて、「つかむ」とか、「調べる」とか、「まとめる」とか、そういった学習の過程を重視しながら、問題解決的な学習が進められるような配慮がされているというように思いました。

その中でも、とりわけ、私は日本文教出版社の、はてなの使い方が、子供にとっては非常に、子供が疑問に思う、気づきを促す点で優れていると思った次第です。

ただ、他の教科書がそうではないかというのと、そういうわけではなくて、それぞれにしっかりと学習の問題が示されているというのが良い点だと思いました。

ただ、私はやはり調べ方や、まとめ方や、考え方などの学習の機運が高まっていくということが、社会科ではすごく大事だと思いますし、また、学習を通して、社会事象にも関心が広がったり、深まったりするというのも、とても重要だと思っております。

また、そのことを通して、学習を通して、自分の考えが、子供たちの考えが変容していく、より良く変容していくということがとても大事だと思っていて、そういった意味では、やはり、そのようなことが促せるような教科書を選びたいと思いました。

三田教育長)

ありがとうございます。

他の委員はいかがでしょうか。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

私もこの3社の内容を拝見いたしまして、子供たちのまず、色々なことに疑問を持つということ対し、本当に見つけやすい形で教科書が作られているなと思いました。「疑問を見つける」とか、「つかむ」とか、色々な表現で3社違ってはおりますけれども、「つかむ」、「調べる」、そして、最終的には、それを自分たちの生活にどのように生かしていくかというところまで還元出来るような形がとられているということを確認いたしました。

日頃、この社会科のことで、子供たちの学習の進捗状況で、一番課題になっているのが、色々な資料の読み取りということです。例えば3年生の力、各社の棒グラフの読み取りの方法なども、きちんと細かく手順を追って、横軸が何を表しているのか、縦軸が何を表しているのか、その次には、今度は複数のグラフを比べてみよう等、そのような形で、きちんと資料の読み取りも丁寧にされているなという感想を持ちました。

私が注目したところは、まず日本文教出版社は、防災に関しては、例えば新宿駅のこと等、都市部の自然災害を写真付きで、また「東京防災」のことについて扱っているという点が特徴であると思っております。

また、教育出版では、歴史の分野は世界との関わりをより意識した作りになっていると思いました。

また、各教科書で、自治体がもたらす働きですね。各役所等の働き、区議会や市議会等の働きというところで、子育ての面とか、子供がより身近にわかる話題から切り込んでいくということで、例えば教育出版の方では、世田谷区の事例も出ておりますし、日本文教出版社では足立区と、東京都の区部の例を持ってきているということも身近に感じると思いました。

また、世田谷区では、世田谷区の子供条例や、子供の権利条約についても触れておまして、豊島区でも、子供に関する条例も策定しておりますので、その点では、非常に近い部分があると感じました。

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、いかがでしょうか。

樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

お話をさせていただく前に、新しい学習指導要領に沿って大切な視点をしっかりと捉えて、それぞれの教科書を工夫して、構成・作成して下さった各出版社の皆様、本当にありがたいと思っております。御礼を申し上げます。

また、そうしたことを区内の選定委員の皆様が、大変短い時間の中でやりくりをしながら、こうして細やかに調査をして下さいましたこと、さらには、展示会場に足を向けて下さいました多くの皆様、保護者、地域の方を含め、沢山の皆様に御礼を申し上げたいと思っております。

それでは、中身の話をさせていただきます。

まず、大前提として、子供たちにとって教科書はどのようなものであると良いか。4月に教科書を受け取ったときに、「ああ、勉強したいな」「先生と一緒に勉強したいな」「楽しみだな」、そうした思いが湧くようなものであってほしいと毎年願いつつ、この席に同席をさせていただいているところであります。

子供が学びたいと思うということは、その学ぶ視点がしっかりとしていなければなりませんし、新しい学習指導要領が大事にしているところの、自分で考えて、そして友達との、もしくは先生や他の方々との対話を通して資料で深め、さらに自分でその課題について探究をしていき、一定程度の自分の言葉で表現が出来たら良いと思います。

そうすると、そういうことを子供がするためには、先生方がそれだけの授業力をさらに深めていただけるような、また、深めなければならない、深めていきたいと思うような、教師にとっても学びを深めるような教科書であっていただきたいというように思うのが、教科を問わず、私の思いでございます。そうした視点を一番大事にして、教科書を拝見させていただきました。前置きが長くなり、すみません。

そうしましたときに、やはり社会科は沢山の資料がありますので、それらを取捨選択しながらも、子供たちにとって資料をどのように選ぶか等、そういうところに工夫がされているのは、3社とも全く同じでございますし、ご苦労されているというように思っております。

そして、子供が学びたい、何を学ぶのかということが、やはり明確にわかるものが宜しいかと思っております。

そうしたときに、例えば「暖かい土地の暮らし」という、5年生の沖縄の学習の部分ですが、その部分を3社で比べさせていただきました。

ああ、ここからは暖かい土地なんだということが目に飛び込んでくるのは、東京書籍の構成だったというように思っているところです。

この会社のものは非常にわかりやすく、48ページです。多少余白もあるので、非常に見やすいと思っております。

また、教育出版におきましても、「暖かい土地の暮らし」、「自然状況と人々の暮らし」という何を学ぶかの学習課題が大変見やすいと思います。

それから、日本文教出版社におきましても、沢山の資料があることが特筆すべきだろうと思いますが、学習課題が少し小さくて、私は見にくく感じました。

それから、学習課題のはてなと、本文中の子供のはてな、それからエクスクラメーションマークが重なっているものが非常に多いと感じました。そうすると、同じことを何回も何回も言われていて、子供にとって自分の気づきよりも、このキャラクターの気づきの方が先行していて、そちらに少しとっ張られるのではないかと私は感じたところでございます。

以上です。
三田教育長)

ありがとうございました。

今、樋口委員の冒頭にありましたけれども、先程、今まで教科書の展示に足を運んでいただいた皆様方や、あるいは調査委員会の先生方もいろいろと調査でご苦労かけたことで、冒頭、私共も、その御礼を申し上げなければいけなかったのですが、樋口委員より代表していただいたということで、どうもありがとうございました。

では、白倉委員、いかがでしょうか。

白倉委員)

全体的に読ませていただき思ったことは、学習の仕方とか、そのやり方については、本当に3社とも遜色ないので、大変工夫されておりました。それで、この資料の中で、一番領土問題について、たくさん詳細に書いてあるので、私は、領土問題には、ほとんど3社とも同じような形で取り扱っているのですが、児童が、これを見たときに、北方領土とか、竹島とか、尖閣諸島がどこにあるかというのが分からないと、次の地図にも関係するのですが、問題が起きているのは、日本のどの辺り、国境の近くで、日本と、ソ連と韓国と中国で、今対立しているとかしていないとか、この領土問題について、権利関係などについては後で、また調べていけばよく分かることですよ。

それよりも、私は、豊島区の子供の実情としては、47都道府県の位置関係がどのようになっているかが出来ていないので、その点をしっかりとさせていただいた方が良いと思います。

歴史に関して、東京書籍は、6年生の最後のページの部分の年表が、日本と世界の出来事、それから主な人物と、3つの欄に分かれていて、これ中学生になり歴史を学ぶときに、日本史や世界史を学ぶときに非常に役に立つし、その時代時代、日本人がどのように関わったかも関係すると思いますけれど、この年表に関しては、東京書籍が一番しっかりと書かれていると思いました。

また、歴史認識については、日本文教出版も東京書籍も、正確な歴史認識を示して、新しい平和憲法がどうして出来たかといったことを後のページでも取り上げているので、これは今の時代に、しっかりとこのことを学んでいただければ良いと思います。

比較という点では、今の憲法と、昔、戦争中の憲法がどのように違うかというようなことも勉強出来るようになっているので、非常に良いと思いました。

それから、もう一つ、私が気になったことは、昨今、若手の先生が非常に多いので、先生が自信を持って、授業展開を出来るような教科書が良いと思います。先生が自信を持って授業をしていけば、子供たちはそれを肌で感じて、子供も不安なく勉強が出来るので、そういった内容についても分かりやすい手順がある教科書が良いと思い、見させていただきました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

今、白倉委員から、地図の問題についてお話がありました。社会科教育の中で、地図の理解や活用について、これは全国的な傾向ではないかと思えますけれども、本区でも学力調査をした際に、資料の活用と同時に地図の扱い方に不十分さがあるのではないかというご指摘がありましたので、こうした配慮があるということが、教科書で読み取れるということは、大きな視点になると思っております。

私は、基本的に教育委員の皆様が申し上げていることと同様に、新しい学習指導要領の考え方を各社ともしっかりと反映して、表現されているのではないかと思います。

そこで違いを見つけることは中々大変ですけれど、例えば豊島区の勉強会に参加したら、防災や安全の単元で、インターナショナルセーフスクールに取り組んでいるとあったが、そういうものについての取扱いが、教材化がどの様に進んでいるのかということ等、教科書を見ていくと、例えば防災安全マップの作り方、手順とともに具体的に、日本文教出版は取り上げていると思えました。

また、教育出版では、いわゆるサイバー攻撃など、一般的に情報化社会の中で格差を生み出しているサイバー攻撃や個人の格差の問題について触れていました。

それから、東京書籍では、ネット社会の問題点について、AIの言葉も含めて、これからの時代をどのように理解していくかということに焦点を当てているということですから、そうしたものをどう教材を活用して、本区の子供たちが生かせるかということに、一つ視点を当てる必要があるかと思います。

それから、調査部会の中でも出ていましたけれど、やはり防災の問題では、特に都市型の防災ですね。3. 11のとき本区では、帰宅難民という形で言葉が表現されていますが、帰宅出来ない人たちが大勢あふれて、予想外でした。発生して、今現在は、対策ではそうした部分も充実させていますけれど、都市型の災害について、非常に大きな直下型の地震も予想されている時代ですから、それをどう教科書が扱い、子供たちに実際に活用出来るようなものになっているのかということが、大切な視点だと思います。知っているけれど、出来ないということでは、やはりやらないということで、どのように役立てるかというのは、各社ともいろいろ工夫されています。ただ、その扱い方がどういう教材を充てていくかということが、最終的に判断視点になると思えました。

それから、一番大事なことは、社会科ですので、「何のために社会科をやるのですか」というときに、私はどの教科書も全部、例えば3年生は、生活科からの関連で丁寧に社会科に習うような手法が、この教科書でどう学ぶかという事は、各社とも見開きで折り込みを入れながら、ページ数を増やして扱っているのは大変感心しました。是非、こうあってほしいということで共通していました。もう一つは、何のために学習するのかということ、各学年毎に、最初のページに日本文教出版はそれぞれの学年の段階のものをきちんと取り扱っていました。問題解決学習で進んでいくということは、どの社も同じような扱いになっていますので、要は根本的に社会科でどういう社会的な物の見方、考え方を育てていくのかという点では、私は日本文教出版が突出した配慮があるというように思いました。

それから、環境問題や、本区が外国人児童生徒も増えてきているということから、文化の多様性や人権、そういったものについても、どういう配慮がなされているのかという観点ですと、どの教科書もカラー化して、非常にきれいに書かれています。きれいなものと、学習の論理がきちんと読み取りやすく出来ているものとは、やはり教科書としては少し違うのではないかと思います。

それで、とりわけユニバーサルデザインという配慮ですね。これは色の問題にしても、構成にしても、様々な個性の違う子供たちが学級の中にいるので、教員も学習していくわけですので、そうした子供たちに理解しやすいようなユニバーサルデザインに配慮しているというのは、それぞれあるのかも分かりませんが、非常に分かりやすく構成しているのは、私は、日本文教出版の配置がとても大きく、単元の最初に見開きで、写真情報でしっかり見て、見えることというのは、誰でも見えるわけで、そうした配慮をしながら次の個別の課題に入っていくというような手法をとっていると感じました。

色々と議論すべきことはあると思いますけれども、他に先生方の方から、こうしたことはどうだろうかということであれば、そういうお話も伺って、審議をまとめたと思います。いかがでしょうか。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

新しい学習指導要領におきましては、見方、考え方ということが、目標の中に必ず明示されています。そういった意味では、教育出版の教科書について、今、私は5年生の教科書の最初のページを見ているのですが、この様に社会科の見方や考え方が、きちんと示されていて、時期や変化について、場所や人が、関連付け、総合するなど、色々な子供たちがどの様にして社会事象を捉えていくかという、そういった物の見方・考え方が、最初に示されているというのは学びやすい、良いことだなという様に思いました。

また中身の紙面構成は、一部には、割合、紙面構成が、先程、教育長がお話されたユニバーサルデザインの観点からすると、見やすい作りになっていると思えました。

また資料などは、東京書籍は、非常に様々な資料を集めていると、私は思います。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、この後、皆さまのご意見をまとめていただくということで、お手元に色刷りのファイルがあるかと思いますが、この中に、投票用紙【社会】と書いてあるものをお取り出しいただければと思います。

では、そこに東京書籍、教育出版、日本文教出版とそれぞれありますので、先生方が良かったというものを一つだけ丸を記入していただいて、事務局にご提出いただければと思います。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、今、確認をいただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで、社会についての審議を終了いたします。

それでは、教科書の交換をお願いしたいと思います。

続きまして、地図の選定資料について、事務局より説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

では、報告、説明が終わりましたので、これらについて、選定資料について、選定委員会での諮問ということでございましたが、宜しいですか。

それでは、実際に、この後、先程と同様に事務局での時間をとっていただいて、ご覧をいただいて、確認をしていただいて、議論をしたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

では、10時25分まで宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、宜しいでしょうか。そろそろお時間でございますが、では、発言を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私は領土問題について関心を持って、両社、両方の地図帳を見せていただきました。

東京書籍の方は、領土については写真を載せながら、択捉島や竹島、魚釣島など、そういったものを扱っています。

帝国書院の方も同じで、やはり写真を載せているのですが、その写真が詳しく載っているのは、帝国書院の方でした。このページです。

三田教育長)

何ページですか。

藤原委員)

これは29、30ページですね。この部分で、日本の領土をきちんと全体を示されていることと、右側のところと下のところに、それぞれの固有の領土についての写真が詳しく、また、その説明がきちんとされているというように見えました。

とりわけ日本固有の領土の中の1、北方領土、2、竹島、3、尖閣諸島となっており、尖閣諸島の説明が、「日本固有の領土です。一番奥に見えるのが諸島の中で最も大きな魚釣島です」というふうに、「一番奥」と、「向こう側の方に見えるのが」というふうを示

してあるので、「ああ、魚釣島がそういう位置関係からすると、尖閣諸島の中でこういうところなんだ」というのが写真でわかるという点が、印象的に思いました。

もう一点、地図の示し方の色調についてですが、東京書籍は色の濃さでもって、要するに土地の高低がわかりやすいような色合いであるというふうに思いましたし、また、帝国書院の方はそうではないかという、そういうわけではなく、色調がソフトで、見た感じがずっと地図帳を抵抗なく見ることの出来る色調ではないかと思いました。

そういった面では、余り抵抗感がないというのは帝国書院かなと思いました。

また、もう一点、産業についてですが、産業のページが、例えば帝国書院の、私は好きだと思ったのは、個人的な好みかもしれませんが、日本は、海に囲まれた国ですよ。ですので、やはり日本の漁業という部分に注目したいと思っていて、この95ページと96ページの、とりわけ96ページの日本海、太平洋の海流や、あるいは主な漁港の水揚げ量など、そういったところがわかりやすく示されている。そして、それは、もちろん、東京書籍の方もそのように示されていますが、やはり魚は海流に乗ってやってくるものである、親潮ですとか、黒潮など、そういったものの海流が載っているということが分かりやすいと思いました。

それと、あと魚の示し方ですが、水揚げされる主な魚が、東京書籍は魚のイラストで示されています。私は、これはユニバーサルデザインの観点から考えると、一々、この魚は何の魚かなと、元の資料に戻らなくてはいけないのは、少し見づらいと思っていて、帝国書院のこの漁獲、水揚げ量のところに、例えばイカ、タラ、サバなどの、そういう言葉で、そのものがずばり書いてある。イワシ、サバ、ブリ。例えば銚子漁港ですね。そのように掲載している方が、はっきりと分かって良いのではないかと思いました。

細かなことですが、実は、この細かいことが子供にとって分かりやすいかどうかというところにも関わると思ったので、私はどちらかというと、帝国書院が見やすく、知識量もたくさん得られる地図帳であると思いました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

他の教育委員の皆様、いかがでしょうか。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

恐らく、ここ10年程で、私たちの中で、生活の中における地図の扱いというものが、非常に大きく変わったのではないかと思います。どこか知らない町に行くにしても、最近ではもう地図を見なくても、スマートフォン等で、本当に簡単にその場所に行けてしまう。だからこそ、なおさら子供たちには、きちんと、地図の使い方ということをしつかりと勉強してもらいたいと思っております。

地図を見るに当たって、1冊の本になっておりますので、これがちゃんと開きやすいか

どうかというものも、非常に重要ではないかと思っております。

そうすると、若干、帝国書院の方が、本自体がやわらかくて、私は開きやすいという印象を受けました。

また、子供たちの地図の使い方ということで、多くのページを確保して、説明してあるのが帝国書院の方ですね。ページ数が非常に多かったです。

ただ、この見開きで、一番最初の表紙の見開きで、子供たちが「地図はこういうものなんだ」と最初に出会うのが、このページなのかなと思ったのですが、東京書籍の方は、非常にぱっと明るい色合いで、楽しそうな雰囲気が漂ってきます。

帝国書院の方は、簡単ではありますが、きちんと緯度、経度が入っている地図の形、世界地図の形を出していると思いました。

また、世界の国の色々な「こんにちは」という言葉や、挨拶が入っていたり、そういうところも子供たちは興味を持つのではないかと思いました。

あと、地図だけではなく、資料集としての扱いにも、これは1冊の本としてなっておりますので、この資料の年度がどうなのかと、出典がどうなのかと、見ましたところ、ほぼ年度の違いに大きな差はなかったのですが、1カ所だけ、1年間違うという部分もありましたけれども、ほぼ新しいものが使われているなどということは思いました。

また、東京書籍の方は、日本の歴史の部分が年表で載っておりましたけれども、そこに世界との関わりということで、年表だけでなく一緒に地図、世界地図も、77ページ、78ページに載せられておりましたので、こういうものも非常に役立つページではあるなどという印象を持ちました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

白倉委員)

やはり、両社とも大変特徴があって、素晴らしいですけど、最初に見た感じとしては、色合いなど目に飛び込む感じは、帝国書院の方が良いなど、私は感じております。

そして、この中で、色々と地図帳の一番大事な約束事や、地図帳の使い方が、14ページに渡って解説されているので、これは非常に良いことだと、私自身は感じました。

それから、世界と地球儀ということでは、経度、緯度、方位、位置、距離、面積、形等を調べることで、帝国書院も東京書籍もほとんど一緒に差はないように思いましたけれども、索引が地名を探すときに、一番重要なのではないかと思ったのですが、東京書籍の方は、詳し過ぎて探しにくくなる。帝国書院の方は、色合いがそのように感じるのかどうか分かりませんが、索引から地名を探すのは、帝国書院が良いと、私自身は感じました。

これで児童が使いやすい、見やすい、授業で使いやすいことを考えると、帝国書院が良いと、私は感じました。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、樋口委員、宜しくお願いします。

樋口委員)

2つの会社のコンセプトが違うというように感じております。

東京書籍の方は、地図のところに資料が少し載っていて、関連付けながら、ただ位置だけではなくて、考える工夫がされているというように思います。

日本地図を見たときには、確かに、帝国書院の方が少しやわらかいので、その意味では見やすかったり、県ですとか、そういった点も認識しやすいようになっていると思います。

一方、世界地図を見たときには、逆に東京書籍の方がやわらかいという感じもありますし、例えばアフリカの扱いなどを見ると、東京書籍の方が非常によく分かりやすく、勉強しやすいページに、東京書籍では61、62ページですが、帝国書院の同じ内容のページは79、80ページですが、そのようになっているというように思いますので、それぞれに特徴があるので、大変難しいところではありますが、子供が興味を持って勉強しやすいのはどちらかなという視点で、選ばせていただこうと思っております。

三田教育長)

ありがとうございました。

私、皆さまと重ならないように、少しお話しさせていただきますと、やはり、これからの教科書を含めて、地図帳、特に込み入った位置関係の中で、地名を入れたり、海の名前や、色々な特徴を書き込まなくてはいけないという難しさはあると思いますが、学年に応じて、必要なときに必要な情報が入ってくるということが良いと思ひまして、そのような観点で見ると、入門期、地図が一番理解されにくい、子供たちに弱点としてあるという克服すべき課題として考えると、帝国書院は、12ページ割いて、都道府県の地図をどう見るか、詳しく地図を見るときはどうするかなど、色々な手法が入門期の指標の問題、等高線の問題など、地図化していくときに、絵地図からどのように進めていくのかということが書かれていて、東京書籍も、この点では10ページ割いて、鳥瞰的な絵地図から、これをどのように絵地図化していくのかということですが、順序性という点で、一気に高学年化していて、丁寧さという点では、帝国書院ではないかと思ひます。

また、ユニバーサルデザインという点で、例えば同じページの書き方でも、地図帳は情報が集約されているので、ページや、先程出ていた緯度、経度という、どこに着目するかという点はすごく大事だと思いますが、そういう点は、メッセージを広くページでとって、目に飛び込んできやすい配置をしていて、タイトルと一致しているという、こういうデザインの方法というのはすごく見やすさ、使いやすさに繋がっていくのかなという点で、工夫がされている。見やすさという点で、帝国書院の方が見やすい内容になっていると思ひました。

また、両社ともとても良いと思ひるのは、世界地図の図法が、かつてはメルカトル法という、北極の側と南極の側の面積が極端に違って見えるということを工夫して、図法をそれ

ぞれされているので、広さという概念がわかりやすい工夫がされているなどということを感じました。

また、索引です。資料の件で、先程、樋口委員からございましたけれども、やはり東京書籍は、地図のあるところに資料を出して、関連付けて学習するという工夫がされているのと同時に、帝国書院の方は、学年毎の、例えば91ページにある日本の自然と災害、防災の関係で、地図だけじゃなくて、海溝というものに着目して、ここで関連付けて、災害と、それに必要な情報が含まれているという、そういった違いがありました。

これはどちらがどう使いやすいかという、最後は、そういった判断になるかと思います。本当に、それぞれの地図帳としての非常に優れたものを備えているなと思います。

最終的に索引が子供にとって、地図探しのときに、非常に重要な手がかりになると思いますが、それぞれ、東京書籍さんは索引10ページ、それから帝国書院さんは9ページということで、ほぼ同等の分量で、索引で、子供たちが分からなくなっても、これで引けば調べられる。

したがって、色々な手がかりで、最終的に使いやすく編集されているかということで、私は判断したいと思っております。

以上でございます。

他に皆様から言い残したことなどございますか。宜しいでしょうか。

それでは、先程と同様に、ファイルの中に、今度はオレンジ色の用紙が入っているかと思えます。【地図】というものをお取り出しただいて、どちらかに丸を付けて集約させていただきたいと思えます。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、ただ今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで地図については終了といたします。

ここで少し休憩をとりたいと思えます。

ただ今、私の時計で10時45分でございますので、10分間休憩をとり、10時55分から再開したいと思いますので、ご協力を宜しくお願いいたします。

(10時45分 休憩)

(10時55分 再開)

三田教育長)

それでは、休憩時間に引き続きまして、続いて、生活科の選定資料について、進めさせていただきます。

事務局より、説明をお願いいたします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

説明が終わりましたが、選定資料の説明について、何かご質問はございますか。宜しいですか。

それでは、生活科は出版社数が多いので、少し時間を多くとりたいと思います。20分程時間を割いて、ご覧いただければと思いますが、宜しいですか。

では、お願いしたいと思います。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、時間が来ましたので、ご意見を頂戴したいと思います。

では、藤原委員、宜しいですか。

藤原委員)

私は、生活科は、やはり子供たちが自立して生活を自ら豊かにしていく力を育てる教科と捉えておきまして、幼稚園や保育園など、幼児期に遊びを通して学んでいくことを、また小学校に入って自覚的な学びに移行する、その大事な視点がスタートカリキュラムだと捉えています。

ですので、そういったスタカリの観点から見ますと、どの教科書も、やはりそういったことを踏まえて、作成しているということと、とりわけ東京書籍や啓林館などは、そういった構成に工夫があると思った次第です。

あとは光村図書や、日本文教出版のそういったスタートカリキュラムのページを充実させていくということが、私はとてもそれぞれ各社工夫があるなというように思いました。

また、光村図書などは、最初に開いたページがイラストで、虫の目で見るとような、そういった気づきを誘うような、最初のページとなっており、子供たちが細かなことを、これからいっぱい見つけていくぞという、わくわく感を感じさせるイラストがあると思って、楽しく見させていただきました。

また、東京書籍は種を蒔いて育てていく、発芽をする、そして花になる、そしてまた、しおれて、最後、また種になっていくという、ページを追って、何か重ねていくと全部比較して見られるようになっている。そこが子供にとって面白いなと思いました。

また、他の教科書でも、例えば日本文教出版でもそういった作りになっていますね。日本文教出版は山折りにして、重ねるような具合になっていますけれども、東京書籍は、そういうものをスライドさせると、何か重ねていくと、自然と分野が分かれているというふうな仕組みになっていて、これは面白いページだなと思いました。

また、他の会社でも、そういった作りには配慮していますが、子供にとって、楽しく学べるページだと思った次第です。

また、光村図書は、どうすれば、こうなるということで、気づきを深める、試せるよう

な工夫になっていると思いました。

あと、日本文教出版の方は思考ツールの活用の配慮があって、例えば比べたりなど、色々な思考ツールのページがあるのは、面白いなと思いました。

あと、やはり日本文教出版は、わくわく感が何か伝わってくるということと、教育出版は、他教科との繋がり、「学びのポケット」など、そういったところの工夫があって、中のところも面白いなというように思いました。

「満足のはしご」と、あれは使い方によるのですが、先生方がどう使うかという点で、色々見ましたが、私の中では東京書籍と日本文教出版、そして光村図書が、非常に作りがよく出来ていると思いました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、北川委員、どうぞ。

北川委員)

私も、色々見て、本当に迷いました。

子供たちがもう楽しくなるような、表紙から大日本図書の方は立体的で、触りたいと、中はどうなっているのだろうというものが伝わってくる教科書でした。

また、夜の街を探検が出来る雰囲気を出すような、ちょっとした仕掛けがありました。光村図書は後ろに大きなシールが付いていて、子供たちはシールが好きですので、こういうものが、何か授業で貼れると、本当に楽しいだろうなという印象を持ちました。

やはり、子供たちは今まで、先程、藤原委員からもありましたが、遊びながら学んでいた幼稚園、保育園等での生活から、いわゆる授業という形になっていく小学校生活で、そこをどのように上手くシフトしていくかということ、遊びの感覚も、もちろん取り入れながら学んでいくということは、非常に1年生、初期の部分では大事だろうと思っております。

光村図書の方は、他社に比べますと若干イラストが多いという印象がありました。また、文字の方も、いわゆる教科書体のような形ではなくて、手書き文字に近いような、少し変わったフォントもあり、子供たちが書いたような、実際の子供たちが親近感を持つような文字も使っていると思いました。

また、啓林館や、東京書籍の方でも、本当の大きさや、実物大の大きさの植物が入っていて、子供たちも、こういうのは楽しいだろうなと思って見た次第です。

また、先程ありましたように、植物の成長過程が、東京書籍の方ですと、複数の植物を取り上げておりますけれども、種から双葉が出て、段々花が咲いてきてという過程が非常によく分かる作りになっていて、工夫されているなと思いました。本当に迷いました。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、白倉委員、お願いします。

白倉委員)

大変よく工夫されているので、素晴らしい教科書だと思いますけれども、私は、自然の関わりや、安全・防災、地域・家族の関わりなどを色々見たときに、自然の関わりというのは、これは、7社とも全部ほとんど大差はないと思いました。安全・防災は、東京書籍が一番多く、教育出版や啓林館も非常に多く扱っています。地域・家族も、東京書籍が一番多く、あとは、大日本図書、啓林館が、その次に多いように思います。

それから、生活科の導入部分を見ると、みんな、写真とかイラストがあって、非常にイメージが分けやすいように、非常に工夫されているなど。非常に素晴らしいと思いました。

それから、図鑑ですけど、日本文教出版は野菜図鑑や、生き物図鑑、おもちゃ図鑑、それから東京書籍はポケット図鑑、便利手帳、教育出版は学びのポケットということで、手紙の書き方や、発表の仕方、電話のかけ方、記録のとり方など、色々なことを載せてあり、非常に社会生活に役立つ良いことだと思いました。

それから、教育出版で気になったことは、イメージを膨らませるような楽しい仕掛けがしてある点です。例えば下巻の44ページですが、過去、未来と良いことが出来るモニターがあったら良いなということが書いてあったり、下巻の116ページには、もしも未来の自分が見える望遠鏡があったら良いなというようなことが書いてあり、そこを見れば、そこで自分のイメージが膨らませるような仕掛けがあったので、少し変わっているなと思いました。

それから、四季の見方が、教育出版は非常に良いなと思ひまして、これは理科、社会に繋げる、生活というのは1、2年生の導入部分であるので、選択するのに、非常に迷っています。今、皆さんの意見を参考にしながら、選択したいと思っております。

ただ、今、最後に少し見ていて、日本文教出版の下巻の134ページ、一番最後の箇所ですが、点字に触れてみようというものがあり、そこで「おはよう」といったものを、触ることが出来るものがあったので、これは少し変わっているなと思いました。

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、樋口委員、お願いします。

樋口委員)

私も迷っています。本当に楽しいですね。生活科は、やはり入学して、わくわくしながら、「わあ、学ぶって楽しいな」と思わせる一番の、一番というのは、少し語弊があるが大変申し訳ないですが、活動が中心となるものですから、体験や活動が出来るということで、それは子供にとって楽しいだろうな、私は、どれが一番わくわくするだろうと思ひながら、見させていただいた次第であります。

よく学校に参りますと、アサガオを育てて、最終的に種をとって、きっと家に帰って、プランターやお庭で、というふうにしているのだと思いますが、その授業をしているとき

に、花が幾つ咲いたかはもちろんですけども、どんなところから芽が出ているのだろうかなど、そういうことにしっかりと着目をさせながら指導なさっている先生の姿を目にすることがあります。

そうしたことを考えたときに、やはり例えば動植物の場合には、自分で育てるのはアサガオ1種類かもしれませんが、「他もそうなんだ」というように思いを馳せられたり、せっかく自分が育てるアサガオですから、それがどういうふうになっていくのか、「ああ、私も育ててみたい」と思うような効果的な、大き目の写真があると良いなと思うところですね。

それから、2つ目の視点としては、2年が終わったら3年生に移っていきますが、この2年間を通して、子供たちが、自分がどう成長したのかを確かめるのが生活科だと思っております。活動や体験を行うことを通して、思考認識を確かにして、次の活動に繋げる。見方、考え方としては、自分の生活をより良くしていく、自分のことを考えていくというところがありますので、2年生の最後、自分の成長を確かめて、それをどういうふうに還元していくかというところのページにも、大変着目をして見せていただきました。

そうしたことを考えたときに、私としては、教育出版は面白いと思っておりますし、それから、光村図書や東京書籍も、今の視点からすると、大変私としては考え方がマッチングしていると思います。

以上です。

三田教育長)

宜しいですか。

樋口委員)

はい。

三田教育長)

ありがとうございました。

私も、皆さんと同様、本当によく出来ていると思います。

とりわけ入門記の指導の、豊島区でもスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムということで、就学前後の力を入れて開発をしてきた、そういう姿が、各社の最初の入門のところで、色々な工夫を凝らしてやられている。

特に東京書籍は、判を大きくして、写真も大きくして、それで非常に、効果的に写真を取り入れたり、ここの、上の方の32ページと組み合わせると、30ページは、このように、次の成長を見ることができると。どんどん成長を見ていくから、先程あったように、観察の様子が、教科書と比べて、自分のそれはどうなっているのかという学習が出来る、そういうサポート体制をしている。

それで効果を上げるために、おそらく判を大きくされたのだろうと。各社それぞれサイズは同じですが、東京書籍だけは大きい。そういう効果的な使い方をしているのではないかと思います。

それから、大日本図書ですけれども、やはり遊びを通しての入門期ということで、これも、非常にリアルな子供のタッチで絵を上手に使われておりますが、入門の7ページでは、「はい」「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」「入れて」「いいよ」という、集団との関わりで、生活をより良くしていく、子供は必要な言葉をしっかりとここで押さえて、それから「さあ、生活科に入るよ」というような、そういった活動を組織する非常に良い内容だと思いました。

それから、学校図書ですけれども、非常に感心したのは、下の方の「色々なことが出来るようになるうね」という、もう1年生と2年生の違いを明確にして、活動の写真で写していく。また、図で、子供たちの活動を丁寧に、カードというか、ポートフォリオで、観察の様子や変容を見ていくような、そういった書き方も含めて、非常にコンパクトに編集されているので、これは活用しやすいだろうと思いました。

それから、教育出版ですが、皆様のご意見からありますように、「学びのポケット」や、「満足のはしご」など、独特の学びの方法を取り込んで、上下で一貫してやられているので、学び方を学ぶというのは非常に重要だと思います。それから下巻の方で「学びのポケット」が10項目、19ページにわたって記載されているんですね。「考えよう」、「伝え合う」、「調べよう」という、どういう学びが出来たのかということが、次の教科や理科や社会科や、あるいは道徳に繋がっていく。そういうものがきちんと押さえられていて、要は入り口と出口が近い、上手く組み合わせて作られているなと思いました。

光村図書は、本当に、私個人的には、もっと夢を持って、子供の目ですとか、虫の目ですとか、変幻自在に子供が低学年独特の発想というような、そういうものを取り込んで出来るような手法を生かしていると、感心させていただきました。

それから、啓林館ですけれども、他の教科書でないのは、ここは保護者について、保護者にアピールするという項目があり、生活科だと、やはり子供がこんなこと出来るようになったよと、もう嬉しくて、子供が帰宅したとき、保護者の方と話し合ったり、そこから、また保護者が子供の学びを気にしながら、声をかけてくれるというような配慮をどうしたら良いのかということ、それぞれ上巻、下巻にも書いていて、やはり家族とともにというところに配慮されていて、非常に良いと思いました。

それから、日本文教出版ですが、単元毎の写真が、何か表情というような、子供が「学ぶぞ」、「調べるぞ」と、表情に意欲が溢れているような使い方をして、一貫してページの使い方が示されていて、こういうのを重ねていくと学び方を丁寧に学んでいくということが定着していくのではないかと思います。

ただ、春とか、秋とかという、各社それぞれ「夏を見つけよう」、「秋を見つけよう」、「冬で遊ぼう」と、季節に応じた変化を見ていこうというところですが、書いてある図や絵というのは、都会の豊島区の子供たちに上手く使えるかなということは、各社それぞれ違いがありますが、そのようなことが違いを感じました。

総じて、中々難しいと思いますけれども、私は東京書籍や光村図書、あるいは啓林館、日

本文教出版、これらが非常に細やかな配慮がされていると感じました。

他に何か言い残したということはありませんか。宜しいですか。

それでは、生活科についての先生方のご意見を投票用紙にお書きいただきたいと思えます。

今度は、薄グリーンの表紙です。【生活】というところ、全部で7社ございますので、そこから一つお選びいただきたいと思えます。

<委員投票、確認>

三田教育長)

ただ今、確認いただきました通り、過半数を超えるものがございませんでしたので、改めて再審議をしたいと思えます。

それで、票が全く入っていなかったものは除いて審議をしたいと思えますので、東京書籍と、それから教育出版、光村図書、日本文教出版について、取り出して議論して進めたいと思えますので、宜しくお願いします。

それでは、もう少し時間をとりたいと思えますので、5分程、少しご覧になってから、出来れば手短かに議論させていただければと思えます。宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

では、ご意見をいただきたいと思えますが、どなたからでも結構です。

では、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私は、やはり子供たちの色々な気づきを深めるためには、色々な「比べる」とか、あと、どこを見れば気づきが深まるかとか、そういった思考のツールをきちんと示していくことが重要だと思えて、そういう点からすると日本文教出版は、そういったところに考慮がありますね。私は日本文教出版が良いと思えております。

三田教育長)

ありがとうございます。

北川委員、どうぞ。

北川委員)

私は東京書籍か光村図書で迷いました。

光村図書の方の一番良かったなと思ったところが「どうすればいいかな」ということをそれぞれ子供たちに考えさせるというところで、最後は「他にもないかな」といった形で、問いが形成されているので、その部分が光村図書が良いと思えました。

また、東京書籍は、少し判が大きいので、その点が、子供たちも扱いが1年生だと、どうだろうかと思えました。また、1ページに占める文字数が比較的多いと思えました。そこが、最初の1年生にとっては読みやすさから考えると、どうかなとは思いましたが、先

程、申し上げた植物の成長過程がよく見られるというところで、今も、少し迷っているところでもあります。こちらの東京書籍か光村図書です。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、白倉委員、いかがでしょうか。

白倉委員)

私は、最初少し教育出版が一番良いと思って、議論から外れるのであれば、東京書籍が良いのではないかと考えていました。東京書籍は、この中で一番判が大きいようで、学校図書と同じでしたが、イラストや写真が、非常にきれいで、学校の生活のイメージが非常に出ていて良いと思いました。

それから、東京書籍も、もう一度見直して、私が調べたことを見ましたが、「便利手帳」の中に挨拶や安全、発表、表現活動が非常に詳しく出ていて、その中に「安全に暮らそう」、「健康に暮らそう」、「仲良くしよう」という項目は、もちろんありますが、挨拶と気持ちが良いねといった、みんなで仲良く、挨拶は、みんなを元気にするもとだということだったので、東京書籍も全体の構成に統一感があり、私が見た中では、そのように書いてあり、東京書籍を選択したいと思った次第でございます。

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、樋口委員、どうぞ。

樋口委員)

私は、やはり子供本人に気づいてほしいので、あまり書いていない方が、ポイントだけ書いてある方が良いので、そういう意味で、光村図書か東京書籍かと思います。

三田教育長)

私も東京書籍、光村図書、日本文教出版と、教育出版の4つ、見ていて良いなと思っていて、中々教育出版のウェビングを最後に使って、関係性を生活科の中で学んでいって、こういう視点は、総合的な学習に生きるという点で、学び方の方法をとるとしたら、教育出版が良いと思いました。

それから、日本文教出版は、やはり文字を出来るだけ減らして、写真や図で視点をそろえて、子供たちに比較や情報操作をしっかりして、自分の成長をきちんとした言葉にまとめていくという手法を一貫してとっています。

ただ、先程申し上げたような、学び方をしっかり学んで、学年の進行とともに、そういう手法が身について、振り返ると、こんなことが出来るようになっていくという、学習指導要領が狙っている構造に、どの社も気にしているようですが、文字を減らして、写真や図鑑でそういうことを構成しているということは、私は良いなと思いました。その2つ、悩ましいところでございます。

以上でございます。

では、いずれにしましても、最終的にどちらか決めていただいて、投票にしたいと思います。

では、投票用紙。今、配られた投票用紙の白いところにお書きいただいて、ご提出をお願いします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

今、ご覧いただいた通り、まだ過半数を超えておりません。

それで、投票数のうち、複数投票されているところで議論をとということで、光村図書と日本文教出版が残りましたので、この2社で、最終的に、この2社を比較していただきます。どちらか討論はもう必要ないと思いますので、少しご覧いただいて、どちらかということでお決めいただいて、光村図書か日本文教出版ということで、再度投票をお願いしたいと思います。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、再々投票ということをございましたけれども、ただ今、確認いただきました通り過半数を超えるものがございましたので、これで生活科の審議は終了といたします。

それでは、1時から再開としたいと思います。これから休憩に入ります。どうもありがとうございます。

(12時13分 休憩)

(13時00分 再開)

事務局)

委員の皆様、全員おそろいでございます。再開の方、どうぞ宜しくお願いいたします。

三田教育長)

ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、ただ今から、教育委員会を再開します。

それでは、早速、次は英語科、外国語教育ということで、資料の説明をお願いしたいと思います。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、まず今の選定委員会の選定についてのご質問ございますか。宜しいですか。

これも大変初めての教科で、かつ出版社が7社にわたりますので、少し多目に20分程、時間をとりたいと思いますので、その後で議論を進めたいと思いますので。どうぞお手元にとって、確認をお願いしたいと思います。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、時間が大分過ぎており、申し訳ございません、宜しいでしょうか。

それでは、資料に基づいてご意見をお願いいたします。

藤原委員、宜しいでしょうか。

藤原委員)

外国語については、やはり中学年で学ぶ外国語活動と、高学年になって学ぶ教科としての外国語ということの繋がり、つまり指導の系統性、そういったところが重要な点か思っています。

そして、また極めて重要なのは、コミュニケーション力を付ける内容となっているかどうか、それは、もうどの社もそれに力を入れていますけれども、私がとりわけ注目したのは東京書籍の *picture dictionary* が付いていて、私は結構使いやすいものではないかと思いました。

また、学習が、ある一定のパターン化されている点がわかりやすいこと、構成がスモールステップであるということ、そして、聞く・話す・読む・書くといったことが深めやすいのではないかと感じたところです。

また、東京書籍ですが、色使いもすっきりして、見ていて楽しいページだと思いました。

他に、注目したのは教育出版です。教育出版は目標の記し方がとてもすっきりしていて、目次を見ても、楽しく学べる、何か予感が出るような目次だと思いました。

また、ページ毎に何をやるのかがすぐに分かる内容になっているということで、やはり色使いが、私はとても大事だと思っていて、教育出版の方が若干すっきりしているのではないかと思いました。

あと、注目したのは光村図書です。開隆堂もそうですけれど、光村図書は、友達になろうよという、挨拶の箇所、目次の部分を見ましてもユニットがわかりやすく示されているというところです。

他に、もう一度東京書籍に戻りますが、英語を学ぶことで未来が広がるという、その最初の開いたときのページがすごく魅力的だと思い、同じような面では学校図書、やはり英語を使う、使用する仕事ということで職業が載っていますが、職業は例示だと思いますが、ある一定の、例えば寿司職人、キャビンアテンダント、あるいは航空会社の機長、そのような職業に限定するよりも、そのことによって未来が広がっていくという扱いの東京書籍の見方が、何となく幸せな感じがするなというふうに感じました。

三田教育長)

ありがとうございます。

では、北川委員、どうぞ。

北川委員)

私は、まず注目したのが東京書籍の別冊となっております *picture dictionary* です。とても分かりやすくまとまっていて、このようなものは、お

そらく、子供たちは好きだろうなという印象を持ちました。

また、この東京書籍と開隆堂のそれぞれの5年生、6年生の表紙を見たときに、5年生が日本について、何か想像出来るようなイラストや、名所など、6年生の方は、今度は世界に目が向いたようなイラストになっているという点がとても、子供たちがこれから学んでいく、まずは日本、それから世界に夢を広げていこうといった、そういった方向性が感じられる本だなと思いました。

また、英語科ということで、語学だけではなくて、そのコミュニケーション能力を育成するという面では、光村図書にありました「伝わる表現を選ぼう」、ほっとする言葉や丁寧な言葉が載っておりまして、やはり言葉について考える言語活動の重要なポイントだということも、非常に特色ある部分ではないかと思っております。

あと、三省堂では、イラストの中にそれぞれの英単語が書いてありますが、少しイラストの中に文字が埋もれてしまうのではないかという印象を受けました。

アルファベットの字体ですが、三省堂の方は、例えば小文字のaなどが、手書きに近い形ではない、何か変な表現ですけれども、そういう様な文字が使われているのが三省堂だったと思いました。他の教科書は、比較的に子供たちが書く形に近いような字体を使っているという印象を受けました。

巻末に、それぞれ切り取りのカードが付いておりますけれども、もう切り込み線が入っているところと、ただ点線だけで、自分ではさみを使って切りましょうという形のと各社あるのですが、恐らく、この切るということが子供たちにとっては時間のかかる大変な作業であると思っておりますので、そこに授業の時間がとられてしまうというのは、もったいない部分もあるかと、使い勝手の面ではそういった差が出てくるのではないかと思っております。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、次宜しいですか、白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

豊島区は、もう10年以上前から英語活動を実施していて、本区で積み上げてきた成果が、円滑に接続出来るような教科書が良いと思っています。私は系統的に、今、中学校では学校図書の「JUNIOR TOTAL ENGLISH」を使っているかと思えます。それで、この本を重点的に見ました。教科書全体的には、よくきいて話すという流れになっていました。しかし、これは少し難し過ぎるのではないかということもありましたので、一応、この会社の教科書はどうかかなと。

それから、光村図書には、5年生の16ページに、ここだけ、少し英語の表現の下に、日本語が絵に書いてありますけれども、教室で最初に英語を始めるときに、この教室の中で、こういうことをやるのかなということで、それが書いてあります。

それだけ、この英語を書いている下に日本語の意味が書いてある。そして、4つの大切ということも書いてあり、これは、私が教育委員になり、一番初めに南池袋小学校の授業で伺ったときに、最初は3つの単語だけ知っていれば、英語は話せるといって、小学校1年生の子が学習していたのです。そのことの後で、この4つの大切ということが書いてあり、最初に「smile」、笑顔、それから「eye contact」、それから「clear voice」、それで、相手の言葉の反応を読むということで、物怖じしないで、どんどん話せば、意味は多分、伝わるだろうというように、そのとき言われました。

この本は5年生・6年生のものなので、こういうことが大事だということを、光村図書に書いてあるので、これは豊島区の英語教育にも良いのではと思いました。

それから、私は、東京書籍と、教育出版の「ONE WORLD Smile」というものですか、これを見て、東京書籍は、判が少し大きいですがけれど、単元の流れが統一されているんですね。それは、特に若手の教員が授業するには、授業がしやすいのではないかと思います。小学校の先生は、オールマイティーに英語も音楽も教えなくてはいけませんので、そのうえ英語までとなると、相当な負担になるのではないかと思いますので、先生が教えやすいような教科書、先生が教えやすいというのは、先生が自信を持って教えていけば、子供もそれを肌で感じて学びやすいということもあるのではないかと思いますので、そういったことも考えて教科書を選びたいなと思っています。

三田教育長)

ありがとうございます。

学校には若手もいるし、ベテランもいますので、これまで私どもが聞いているところでは英語教育については、各学校で、高学年で英語教育、そして中学年で英語活動、それから、他の学年でも、豊島区の場合は英語活動を実施していますので、そうした抵抗感というのは、比較的解消は出来ていると思いますが。

もし何か説明があれば。指導課長、今の点は、おそらくその現場の実態というものを少し心配されたような発言だと思いますが、いかがですか。

はい、指導課長。

指導課長)

今、委員の方たちが仰った通りで、これまで培ってきたものがございます。これまで、文部科学省の方から出ていた教材を使い、ずっと進めてきておりますので、本区のALT等を派遣しながら実施してきたところではありますが、今後は学級担任等が中心となっていくということを踏まえて、子供たちが学びやすい教科書を是非ご採択いただきたいところをお願いでございます。

三田教育長)

ありがとうございます。

そういう部分も総合的に加味して決めていきたいと思っています。

では、樋口委員いかがですか。

どうぞ、樋口委員。

樋口委員)

小学校で初めての教科書ということで、それぞれ力が入っているというのが、まず印象です。それで、今でも5・6年生は英語活動をしてきている子たちですので、その子たちが、英語が教科化になり、自分がやはり出来ているんだ、ああ、これはまだ足りないとか、そういうことをきちんと振り返りながら、先に進めるものが良いであろうというように思うことが1点。

それから2点目は、英語、国語もそうですけれども、言語ですので、言語のことについて、しっかりと押さえられていて、そのコミュニケーションは楽しいし、人間関係を深めるだけではなく、グローバル社会の中で色々な異文化も学べるんだ、異文化を学ぶことによって、我が国の文化をさらに深めてみたいとか、そういうところにも繋がるんだ、そんなことを大事にしたいというように、私の中では思っております。

そこで、5年生の一番初めに何をもってきているかというのを私は注目しました。勉強したいと思うようなものがあるといいですね、いきなり目次から始まっているのではなくて、3・4年で学んできたから、ああ、これは出来るな、というような、そんな思いがあるものがあるというふうに思います。

それから、それがあっての逆に今度は巻末で、これが出来たという振り返りがある方がよい。だから、キャンドウリストのようなものは必要であろうとっていて、今まで、文部科学省のもので子供たちは、一生懸命勉強してきましたので、そういうことも捉えられるものが良いだろうと思うところです。

開隆堂さんは、特別支援に、かなり配慮をしていると、私は他の教科でも、随分思っているところがありまして、そういう視点で違うと思うことと、この教科書で学んだこと、リストの辺りの振り返りのところは、すごくしっかりしていらっしゃるし、表紙裏が「CAN-DOマップ」になっていて、そこにも呼応があるのかと思って、見ています。

それから、先程のわくわくしながら学び、どれもホップ・ステップ・ジャンプと言ったり、スモールステップと言ったり、色々ですが、それはそんなに変わらないと思うのですが、勉強してみたいと思ったのは、光村図書の「さあ行こう」といった、この辺りの出し方は上手ですし、目次のところに、到達のゴールの目標が書いてあるので、ただの目次ではなくて、ここのユニットでは、こういうことを勉強すれば、こういうことが出来るんだというようなものがよく分かるので、これは子供目線ですごく目標を立てやすいと思いました。

それから、QRコードが沢山英語の教科書には付いているので、探しやすいものが良いと思いました。探しにくいのもありました。

そういうところがあると思うのと、最後に1点、「アニメのまち豊島区」ということで、今年は東アジア文化都市もありますし、このアニメーションを見ていて楽しいのはどれかという視点も大事かと思っていて、そういう部分も、私の基準の一つになっています。

「あ、これ楽しそう」と、もう表紙からアニメーションの絵とかなり違うので、楽しそうな絵が良いと思っています。

今のところ、以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

今、樋口委員の中でQRコードについて出ていましたが、これは、委員の先生方も実際に試したりされたかと思いますが、こうしたことについて、調査委員会の中で、何か議論や意見はありましたか。もし出ていたら紹介していただきたいのと、出ていなければ、これらについての実際に使ってみて、学校が後から困るということがないだろうかという、そうした確認はどのようになっているのかという点をお伺いしたいです。

指導課長、どうぞ。

指導課長)

採択に、直接は関わるところではないということですが、子供たちが学習して、それをより確実なものに繋げていくために、このQRコードをどのように活用しながら子供たちの学びの連続に繋げていけるのかといったことは、調査委員会の中でも、調査部会の中でも話題にはなりました。

各社ともに何らかの形でQRコードを付けて、どういう内容かというものを、一応、見ているところがございます。教育出版のみ学びリンクという形で、その出版社の方で作成した内容のもののみではなく、関係のところにリンクするような形でして、その後の改正におきましては、それぞれ教科書の内容に基づいた基礎的なもの、発展的なものの内容をお示しするような内容に、仕様になっていたという状況でございます。

三田教育長)

QRコードについては、各社それぞれ工夫して設定していると思いますけども、その内容について、これだけでは分からないので、審査に当たって、特に大きな齟齬はないということに理解していいということに宜しいですか。その確認をしたいと思います。宜しいですか。

どうぞ、指導課長。

指導課長)

今、教育長の仰った通りでございます。数の差はございますけれども、その学習に学ぶ上では、差がないというふうに捉えて結構でございます。

三田教育長)

今、むしろフォローアップする、そういうプラス面からQRコードを出している。これまでの教科書の中では、そうしたことが必ずしも全体に行き渡っているとは言い切れなかったけれども、今回の中では、それが有効に活用されているという点で、前向きに捉えて、判断していきたいと思います。

では、私ですけれども、皆さんから出た意見と重複は避けたいと思いますが、東京書籍

のステップの出し方で、やはり何のために英語を学んで、どう変わるかということが、とてもメッセージ性のある、そういった教科書のスタイルをとって良いと私は思いました。単元の流れも、一貫して、統一されているということもありますし、先程来、出ていた picture dictionary というのは、これは中に入っているか、外に別冊で出ているかという違いだと思いますけれども、その外に出てあるということは、2年間使っていけるという、有効に使っていけるという部分もあるだろうし、それから繰り返し使いやすいという部分で、そのメリットとしてあるのではないかと思います。そういう点も取り上げたいと思います。

それから、開隆堂ですけれども、毎回の単元ごとにコミュニケーションを主張して、それから、「Let 'S Listen」から活動が始まっていくという、そういうことで捉えられているのですが、例えば、この5年生の誕生日の部分です。これらは、色々な誕生日を扱って、基本形で聞くと、色々運用して、自分の誕生日のときにも応用できるという意味では、上手な教材構成をしていると思いました。

もう一つ、英語の時間が授業時数一杯になった時に、モジュールを取り入れて出来るという可能性、モジュールで出来るということは、学校単位で行う時に、非常に別途として活用しやすいのではないかとこの点で注目したいと思いました。

それから、三省堂の対話的な学びの視点の中で出ていた、友達から、相槌をもらえるという、その相手意識を持って、コミュニケーションが出来なくてはいけないわけで、そうした点で、会話を続ける工夫として、日本語で発言するというのも入れながら組み込んでいる。

また、やはり豊島区の特徴として外国人児童の数が増えてきているということがありますので、やはり中国語、韓国語、アメリカ、それぞれ入学式や、月などを紹介したときに、視点変更して、日本のことも考えてみる事が出来るというのも、非常に学びの工夫として、良い捉え方をしていると見ました。

それから、教育出版は、やはり対話的な学びの視点で、ペア、グループでの取り組みを構成に入れているということで、反応の仕方、これは、リアクションで相手意識に繋がっていくのだと思いますが、共通点と相違点を着目して、友達の良い点など、そういう部分にも気付きながらレベルアップしようという学びの工夫が出来ているという点でも良いのではないかとこのように思います。

光村図書ですが、私も樋口委員が仰ったように、非常に個性豊かなアニメの登場や、世界の友達のコーナーというところで、やはり国籍に配慮したり、障害者へ配慮したコミュニケーションというものは、これから本当に大事にしていかななくてはいけない、これは外国語だけでなく日本語もそうですけれど、こうした視点を取り入れられていき、グループやペアの話し合いが共同で行われる構成になっている、非常に温かみのある良い構成ではないかと思い、注目して見ました。

いずれにしても、豊島区では長いこと、英語活動を小学校1年生から先行して実施

てきたということ、それから、英語の先行実施をした研究会に臨んでも、子供たちが臆せず使える英語、話せる英語ということで取り組んできていると、中学校の教師の方からも非常にやりやすくなってきたと。中学校での英語教育が非常に臆せず、授業に臨んでくる子供が増えてきたということから、是非、そういう視点も明確にして、採択では決めたいと思います。

本当に、7社が意欲的に、初めての小学校での英語教育にこれだけ力を入れて出版していただいたということで、大変ありがたいことであり、1社に決めるのは悩ましいですけれども、そういうことを心からお礼申し上げたいなと思い、私も検討したいと思います。

では、先生方のお手元にある投票用紙をお取り出しただいて、7社の中から1社を選んでいただければと思います。宜しくお願いします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、ただ今、ご確認をいただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで英語についての審議を終了させていただきます。

それでは、続きまして、家庭科の選定資料について、事務局よりご説明を願います。
指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、今、選定資料についてのご説明がありましたが、これに関するご質問はありますか。なければ、また時間を10分程とりたいと思いますので、ご覧いただき、その後、議論をしたいと思いますので、宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、そろそろ宜しいでしょうか。では、ひとつ発言を宜しくお願いいたします。
藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

今回、家庭科の学習指導要領がどう変わったのかということからお話しさせていただきたいと思います。

まず、少子高齢社会への突入ということで、そうした幼児や高齢者との関わり等について考える場面があるかということや、あるいは持続可能な社会の構築という観点、また、家族と家庭生活や、あるいは食育の観点、あと日本の生活文化、伝統とか、そういったこと、あと、やはり金銭教育をどう取り組んでいくのかということ、とても重要だと思います。

また、消費生活、環境について、持続可能な社会の構築、先程も申し上げましたが、そ

ういった観点から両方の教科書とも、大変内容の充実が図られていると思いました。

ただ、私が比べてみたときに、どちらが分かりやすいか、情報量が多いか、そういったことからすると、開隆堂は分かりやすいと思いました。と言いますのは、例えば、金銭教育の部分を見ますと、開隆堂は58ページからですが、お金というものの捉え方、生活を支えるお金と物という、お金というのは、私たちの生活を支えているものなんだ、それが家族の人たちが働いて得た収入を私たちが何に使っていくのかという、生活の中で、お金の役割や生活とを引き寄せて考えさせるようにしています。

ですので、お金を使うときには、収入と支出のバランスが大事といったこと、本当に、子供たちに金銭感覚を養う上で、それは大事なことだと思っています。その一方で、東京書籍は、持続可能な社会の構築に絡めたお金の使い方、だから、お金を大事に使って、物を大切に、そして無駄なものを使わないようにして、また環境を考えたお金の使い方をしていくと、そういう視点であります。どちらも、とても意味があると思いますが、小学生の子供だったら、やはり自分の生活の身近なところで、お金の使い方を工夫して考えていくというのが順当な線であると捉えました。

また、今度は食育の部分ですが、今までゆでる野菜はジャガイモや、ブロッコリーなど、何を使っても良かったのですが、新しい学習指導要領では、青菜は必須で取りあげることになっています。

それは、開隆堂も東京書籍も両社そうです。ただ、それは何故かという、青菜は、ゆでるとかさが減る、かさが減るので摂取しやすくなることを、ゆでることの特徴として、学ばせるということになっています。ブロッコリーはゆでてもかさは減りません。でも、やわらかく食べやすくなります。そういった野菜の特徴はありますが、そのかさのところをきちんと写真で示しているのは、開隆堂であると思います。青菜のおひたしの14ページの部分がそうですが、青菜のおひたしを作って、次のページの16ページのときに、生のとき、そして、ゆでたときと、写真で載っており、かさの変化も分かりやすくなっています。

また、和食について注目させています。だしをとるという部分では、開隆堂は、52ページ・53ページのみそ汁のだしで考えさせていて、やはり東京書籍も、だしについては、みそ汁のところでもどちらも丁寧に扱っています。そして、東京書籍は、煮干し、かつお節、昆布と、実際、鍋の中に入った状態で示しているのも、また、これはこれで分かりやすいと思います。

開隆堂の方は、乾物の状態でお皿に乗せて、見せている。そして、他には干しシイタケも載っていますが、干しシイタケもだしとしては良いが、基本は3つで、煮干し、かつお節、昆布が良いのではないかと、私は思います。それも日本の伝統的なだしとしての扱いなので、どちらもとても良い扱い方をしていると思います。

他に、色々な調理の手順や、製作の手順は、横一列に並んだ開隆堂は、ユニバーサルデザインの視点もあると思っています。横一列で見ると発達に課題がある子供たちも見やす

く理解しやすいのではないかと考えております。

もちろん、東京書籍も横一列で配置しているところもありますけれども、そうでないところもあるという点から、比較して、どちらも素晴らしいですけど、開隆堂が一步上かと私は捉えました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

要は、子供が使う立場で捉えるという視点だと思います。

藤原委員)

使いやすいかどうか。

三田教育長)

では、北川委員、いかがですか。

北川委員)

まず作りが、大きさが違いますので、その分、東京書籍の、例えば一番後ろの方に載っております資料のページがありますが、野菜の切り方ですと130ページ、131ページ、この写真と開隆堂の裏表紙の方を比べますと、どうしても、やはり写真が大きい東京書籍の方が見やすいというような印象があります。

また、例えば手縫いのページですけども、開隆堂は24ページ、東京書籍は27ページで、針の進む様子というものが番号で1番・2番・3番と、このように追って書いてあるのですが、東京書籍の方が、きちんと、この目が1番目の針が入ったところ、2番目に針が入ったところと矢印が付いています。それに対して返し縫いの例ですけども、開隆堂の方ですと、私は1番・2番・3番がどこを指しているのかが少し分からないという印象があったので、分かりやすさだと、こういう部分は、東京書籍の方が分かりやすいのではないかと考えました。

また、面白いと思ったのが、開隆堂の方では、例えば30ページの持ち物の整理や60ページの買う前に考えようという部分で、これは、恐らくプログラミング教育にも通じるところであると思いますが、いわゆるフローチャートのようなものが書いてあります。ある事象があつて、判断があつて、そこから物事が分岐していくというような図、プログラミングの中には、順次処理と判断と繰り返しというようなものがありますけれども、それが、上手く子供たちに少し前段階として考えさせる手立てが、ここに載っているというのは非常に、いわゆる理数の方ではない分野だけれども、家庭科でも、このようにプログラミング教育というものを取り入れることが出来るんだよ、ということが示されている、面白い例ではないかと考えて、注目いたしました。

三田教育長)

ありがとうございます。

これからの教育はそうした考え方が大いに取り入れられていくというか、課題、学習指

導要領上の課題になっているなというご指摘だと思います。

では、白倉委員、どうですか。

白倉委員)

まず、この家庭科を見て、私の時代には考えられないようなことばかりなので、非常に感心しました。今の時代、みそ汁でも、だしでも何かお湯を入れれば、みんな出来てしまうようになっているので。こういう基礎的なことを子供たちが習っておいしい料理を食べさせてくれるということは、非常に良いことだと思いますので、是非、これを教えてあげていただきたいと思います。

それから、2社ほとんどよく似ていると感じました。内容的には、ほとんど甲乙付けがたい。ただ、私が普段見ることの出来ないことが両方に載っているのは、お米の炊く具合が、透明の容器の中にお米を入れた状態で載せているのは、両方の教科書に出ていました。新任の教員とともに山中湖に行くときに飯盒炊爨をしますが、こういったことを習っていれば、沸騰して、容器の中のことを想像出来れば、出来るなと思って、だから半生のご飯を食べさせられないというのが分かる、これは、非常に素晴らしいと思って、見させていただきました。

それから、先程ありましたけれども、色々と比べてみて、お金の使い方や調理、写真の見やすさ、裁縫など、色々なことをトータルに考えますと、私も、全体的に写真が多く、情報量が豊富で内容も盛り沢山で、学習の進め方では、手順・段取りが分かりやすい、総合力で開隆堂が良いなと、こう思っております。

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、樋口委員、お願いします。

樋口委員)

家庭科の見方・考え方の中に食事や、環境、衣服など、色々とあると思いますけれど、そういう様々な視点を経て、より良い生活を営むために工夫をするというような文言があると思います。その視点から見させていただいております。

表紙の裏に「家庭科は、あなたの生活をより良く変えていく教科です」という文言が、東京書籍は、まず、そのように銘打っています。ここが非常に分かりやすいと、私は思っています。まさにそれを捉えていらっしゃる。

もちろん開隆堂も他教科との関連を繋げながら、そして段階的に行くことはよく分かります。開隆堂の場合は、4つの視点を明確に持ち、それによって構成をされているので、その振り返りが子供たちに出来るような構成になっていると思います。

一方、東京書籍の方は、今のキャッチフレーズのもとに2つの山を出して、スパイラルに登っていくという、5年生と6年生の学びがこのように繋がっているんだよという点が大変分かりやすいと思っております。

私は、様々な視点の中で、やはり先程藤原委員からもご指摘もあった消費者教育について

ては、とても大事であろうと思っております。

開隆堂ですと58ページから始まるところでございますし、東京書籍は32ページから始まる場所だろうと思っております。これを両方比べたときに、では、私はどうだろう、私の買い物や、生活はどんなのだろうというところを考えたいと思ったのは、東京書籍の方でございまして、様々な環境の配慮のJISのマークなど、そういうことまでも広がって書かれているので、私自身は、これを自分でも私の消費はどうかしらと思いついて見たいところなんです。

もう一点は、地域の一員として、どのように生活をしていくのかという視点も大変重要であろうと思っております。開隆堂は、120ページからのところと、東京書籍は122ページのところでございます。子供たちの生活を見ると自分のことで精一杯ではありますが、地域のお祭りに参加させていただいたり、地域の中でボランティア活動をしたりと、そういう生活を現在している子供たちにとって、地域が本当に宝物で大事なんだというところを考えたときには、私は東京書籍の、このページは学習したいと思ったところなんです。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

私は、家庭科教育のあり方ということで、冒頭から話してまいりましたけれど、その通りだと思えました。あわせて、家庭科を学ぶとき、こうした学んだことが、知っているレベルというのは出来るレベル、出来るレベルから続けて役立つレベルというところまで高めていけるような教科であって欲しいし、そういった学びを期待したいと思います。子供たちがISSの活動に取り組む中で、安全というものは、誰からも守ってもらうのではなくて、自分自身がしっかりと守るべきものは守っていくんだという意識、自分が出来ないところは、社会や行政が考えていかななくてはならない。

それと同じように、例えば安全への配慮は、この家庭科の活動の中で沢山ありますよね。包丁を扱うとき、あるいは道具を扱うとき、事故やけがなども含めて分かりやすく、どのように活用出来るようになっていくのか。

それから、ご飯の炊き方は分かるけれども、お父さん・お母さんがいないとご飯が作れないという、せめてサラダ、ご飯炊いておくよというようなことで、出来るような子供になって、ああ、家庭科をやると、このように成長するのだという子供になってもらいたいなと思っております。

そういう点から、どういう出し方が良いのかということだと思っております。特に、戦後、家庭科というのは、新しく生まれた教科でございますので、今の傾向として、こうした教育が、時間数が、授業時数が減らされてくる。それから、かつてはベビーブームで専科の先生がいっぱいあったけれど、今は、大規模校以外は専科もいっしょらないということで、全てのことは担任が指導する前提である、そういう教科になっております。

ということから、やはり子供が分かりやすく学びやすくという点でも、私は、この配置

を見たときに、教材の構成がずっと上から下というのが、先程もありましたけど、ユニバーサルデザインだと思いますね。これは、やはり開隆堂が非常に優れていると、一貫して、このような視点ですね。だから、障害のある子供もそうでない子供も、この使いやすい、見やすい、扱いやすいということでは、非常に良いのではないかと思います。

それに対して、東京書籍の方は上から下という流れもあるし、左へ行っても、右へ行ってもという一定の類型で構成されています。一貫性がないとかというご指摘、一貫性はどっちもありますが、徹底してやっていくかどうかということも、一つ使いやすさという点があるのではないかと思います。

それから、見える化の、先程、白倉委員からありましたが、私は、東京書籍の42、43ページの、透明な鍋を使って、ご飯の炊き具合のポイントを扱っている、非常に、これは良い工夫だと思います。中々見えにくいもので、ご飯を炊くといっても、私の家はお釜で炊いたので、「初めちよろちよろ、なかぱっば」と「赤子泣いてもふたとるな」なんて、そういう調子で教わった時代、山勘で、勘と度胸で決めて、炊き具合を決めるなんていうことは、もう今はやらないわけですね。電気釜で、あるいはガス釜で炊ける。けれど、改めて米食を主食としている日本の子供たちが、そういった炊き立てご飯がきちんと自分で作れるというようなことを学ばせるのに、見える化という工夫をしている。これは、中々良いアイデアだと思います。

開隆堂の方は、先程の青菜の話ですとか、比較という、比較教材をビフォーアフターで示して、それで見える化を図るという工夫をしているので、工夫をしていないということではなくて、それぞれの工夫の仕方に特徴があると見せてもらいました。

言うなれば甲乙付けがたいですが、やはり、豊島区の実態が、子供たちが多様化しているという、そういった中で、文化の違いなどを子供たちが抱えるようになってきている、その中で、子供たちがどの子も家庭科を学ぶことで、自分の生きる力の素になる、生活というのは衣食住に関わることですので、そうした力がしっかりと育っていくもので選びたいと考えております。

私は以上であります。

それでは、お手元の投票用紙をお取り出しただいて、黄色の【家庭】と書いてあるものでございますが、2社の中から選んでいただければと思います。宜しく願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、ただ今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで家庭科についての審議を終了いたします。

それでは、審議が続きましたので、ここで10分間の休憩をとりたいと思います。2時50分再開にしたいと思いますので、宜しく願いいたします。

(2時40分 休憩)

(2時50分 再開)

三田教育長)

それでは、再開いたします。引き続きまして、音楽の選定資料について、事務局より説明をいたします。宜しくお願いします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

選定委員会の報告が終わりましたけれども、何かご質問ございますか。宜しいですか。

それでは、2社で1年生から6年生までとなっておりますが、全体を通して、お手元にとってご覧いただきたいと思っておりますので、15分程あれば宜しいですか、15分程お時間をとりますので、では宜しくお願いいたします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、時間にそろそろなったようですが、宜しいですか。では、ご意見をいただきたいと思えます。

藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

音楽の教科書を見ますと、やはり今回、和楽器を含む、雅楽が、その郷土の邦楽の学習を充実するということが、一つのポイントではないかと思っています。また、全体としては、やはり子供たちが音楽を楽しむ、そして、豊かに音楽を楽しみながら関わる力を育てる、そういった活動に楽しく取り組むことが出来るかという、そういう点で、2つの会社を見せていただきました。

まず、教育出版は本当に「まなびナビ」で学び合う音楽を大切にしているというところがとても良い点だと思いました。また、日本の古典芸能を広く取り上げているあたりもすごく良いと思っています。また、伝統音楽に親しむというところでは、狂言師のメッセージを入れたり、写真も大変美しく、とても魅力的なページも沢山ありました。ページを開きで、大きな写真を使いながら、表現している、音楽の表現力を高めていこうという、そういった部分もとても素晴らしいことだと思いました。

また一方、教育芸術社の方は、音楽が私たちの生活に果たす役割、そういったものを取り上げていて、説得力があると思ったところです。また、子供に分かりやすい構成になっており、表現や、鑑賞、曲を味わう、そういったところが非常に教える側としても、取り上げやすく、教えやすいのではないかと思います。

また、教育芸術社の方は郷土の音楽という部分も、非常に興味深く取り上げていると思えました。

また、両社とも、著名人と音楽との関わり合いを色々と上手く取り上げていて、特に教育芸術社の方は、5年生のところで、よく子供たちが合唱するビリーブの曲では、作詞・作曲された方のメッセージを入れながら子供たちの合唱を学ぶときに、ああ、こういう気持ちで作られたんだということを感じながら、上手く表現に力を持っていくような作りになっているところが、とても良いと思いました。

両社ともとても良いですが、全体的には、教育芸術社の方が細かな部分で、様々な配慮がなされているところが良いと感じた次第です。

私からは以上です。

三田教育長)

ありがとうございます。

では、北川委員、お願いします。

北川委員)

まず、1年生の、初めて、この音楽の教科書をもって、子供たちがどのように学んでいくのかなというところを比較しながら見ていきました。いわゆる、鍵盤ハーモニカを子供たちは共通の楽器として学んでいきますが、そのページとして、例えば教育出版であれば38ページ、教育芸術社は40ページがドレミファソまで出てきた段階でのページになっています。

それぞれの目あて、タイトルが、教育出版の方は「ドレミファソの音で遊ぼう」、一方、教育芸術社の方は「場所を覚えましょう」ということで、全体を通して、教育出版の方は、1年生の方は「何々で遊ぼう」という形で統一されています。それに対して、教育芸術社の方は、子供たちが遊びながら楽しみながら学んでいくけれども、このドレミファソが出てきたら、それを、何を意識しながら楽しく学ぶのかなということが、この「場所を覚えましょう」といった、そういう部分がより具体的で教育芸術社の方が分かりやすいと思いました。

また先程、藤原委員からもありましたが、音楽が果たす役割というものも教育芸術社の方で、色々と取り上げてあり、私はとても興味深く内容を見ることが出来ました。

また、高学年になって、今度は色々な楽器や音のハーモニーとして、オーケストラが紹介されていますが、私は自分がやっていたということもあり、少し興味を持って、このページはどんな曲を紹介しているのかということを確認しましたところ、いわゆる古典ロマン派のベートーベンの方と、そこから100年ぐらいたった「惑星」、近代の曲ということでした。昔は、やはりクラシックといえ、どうしても古典の方が一般社会でもかかりましたし、聞きやすい、色々なモチーフが明確に重なって曲が出来てくる、また、例えば、この「運命」であったら、本当にいろいろな楽器が、そのモチーフを繋いでいくというところで、分かりやすいクラシックを取り上げているか、あとは「惑星」のように、非常にこれだけ編成の大きな曲というものは、中々ありませんので、とても子供たちのはっとする、イメージも膨らみやすい、また、音楽はすごいなというような感動を持ってもらえる

「惑星」の方を取り上げている。中でも「木星」は歌詞付きで歌われてもいますので、最近はややポピュラーになってきましたけれど、それでどちらを取り上げているかということで、私は、子供たちは「木星」の方が、音楽の幅の厚みや、楽器の色々な音色というところで、もしかしたら、こちらの方が楽しんでもらえるのではないかという印象を受けました。

三田教育長)

ありがとうございました。

体験を交えての発言、なかなか重みがあると思います。

白倉委員、どうぞ。

白倉委員)

また、少し昔の話になってしまいますけれど、私の幼少の頃は、親が、音楽を習った記憶がなく、大人になって、音楽を聞いたりすることは好きですけど、カラオケ屋へ行き、歌を歌うとか、音痴ということもあるのではと思いますが、こういう教育を受けてないからではと思いました。

ですから、1年生に入ったときに、音楽が苦手な子供を作らないような教科書はどちらかなという視点で、私は教科書を見させていただいて、なので音楽が本当に楽しい、生活に潤いを生む、こういうことを本当に小さいときに習っていれば、私の人生も少しは変わったのではないかと思うところですが、見させていただき、後で選ばせていただきますが、どちらかという、少し見た感じでは、音楽、歌、歌いながら、みんな楽しんで子供たちが音楽をやっている。それで、一般的な段階を追って、音楽に親しんでいくのは、教育芸術社の方が優っているのではないかと思います。

それから、もう一つ、その他に、君が代の扱いについて、教育出版の方は、各学年度末に、必ず、この国歌の学習というのを詳しく説明されていて、さざれ石や、君が代の意味が書かれている。教育芸術社の方も掲載されていますが、教育出版程、詳しくは書かれておりません。今、音楽の先生も君が代を歌わない先生もいるということを耳にすることがありますが、自分の国の歌を歌えないということは、どういうことかなということを考えさせられることがあります。

私はどちらかという、苦手な子供にも入りやすい音楽ということで、教育芸術社の方が良いのではないかと感じました。

以上です。

三田教育長)

今、白倉委員の発言の中で、多くの音楽の先生が、きちんと歌えるかという、ご心配な発言がございましたけど、指導課より何かありますか。問題がなければ大丈夫です、そういう先生はいませんと、しっかりと行っていただけると良いと思います。

どうぞ、指導課長。

指導課長)

大丈夫でございます。

三田教育長)

そうですね。しっかりと行っていますので、その点は大丈夫です。

さて、それでは樋口委員、どうぞ。

はい、どうぞ。

樋口委員)

やはり音楽・図工もそうですが、感性というものを大事にしたいと思っております、きちんと音符が読める、その知性の部分も大事でありまして、これが両輪になって働いていくかどうかというところだと思います。

教育芸術社の方は、子供に示す目当てが大変具体的なところまで落ちているので分かりやすいです。例えば、これは5年生ですけれども、片方は待ちぼうけですけど、「詩と音楽との結びつきに気を付けて、日本語の歌曲を味わいましょう」の部分で、その日本語というところもかなり意識をしながら作られていて、子供に対するねらいも、とてもピンポイントで出てきている、そこが教育出版の方は、もう少し緩やかと申しませうか、大きな括りになっているということがありましたので、そういう部分の違いから、どちらの方が子供に提示しやすいのかと思っております。

また、全ての学年の、この目次の構成の仕方についても、教育芸術社の方が、統一性があるのではないかと考えているところです。一方、教育出版におかれましては、音を音符に表れる音だけではなく、体を使ったり、様々なところからアプローチをしているのは、魅力があると思えました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

もう私、発言することがないですけど、強いて言えば、お話が出てないのは、3年生で、リコーダーが入ってきております。比べてみたのですが、どちらもきちんと番号で明示をして、リコーダーには、どんな種類がありますよということは、ソプラノとアルトとテノールまでは同じですが、バスがグレートバスというのを教育芸術社は出しており、これはとても大きい楽器です。子供からすると意外性といいますか、「えっ、こんなものもあるんだ」という印象が残ります。教育出版の方は並のバスリコーダーでした。

また、後ろのページの方に、リコーダーの取り扱いについての運指表が出ていますが、両方とも同じような手法でまとめております。若干違うところは、曲と曲、単元の途中で、3年生の途中でリコーダーが出てきて、繰り返し、後ろを見たりしながら活用出来るようになっていくかの違いになると思えました。

それから、全ページで共通している点としては、教育芸術社は全部で、見開きで写真があり、全体を包み込んでいるので、見開きにして、一つの教材を提示しているというイメージで取り扱われているのは一貫しております。

それに比べて教育出版の方は、とじ込みで、力が入っている「さくらさくら」などは大

きかたり、富士山もこのように3ページ立てに広げて、本当に富士山を大きく裾野を描いていて、とても力を入れているということはよく分かります。

ですので、どちらも、そのイメージーションというものをしっかりと持ち、そこから曲想や、曲への心を込めていくという、そういった情操に繋げる工夫というのをされているということで。中々芸術性という点でも教育出版の方が高いのを持っていると思います。

私は一つだけ、教育出版の6年生に、本区の自慢である辻井伸行さんが出ており、これは本区の屋上で、「豊島の森物語」を創作するときに、辻井さんが作曲された、お父さんと一緒に神田川を歩いたときに、曲想でイメージしたという、「川のせせらぎ」という曲を使わせていただきました。そのように、本区と少し関わりのある音楽家もいよいよ出てきたということを取り上げていただいているということですので、そういった繋がりを持っているということはすごく嬉しいと思います。

しかし、それと使いやすさというものは、また少し違うかなと思いますので、私は、全体として、子供がイメージを持って、感性豊かに自分の力を発揮出来るような音楽教育であってほしいということと、どんな子でも声を出したり、リズムを表現したり、身体表現が出来れば音楽は楽しめる教科ですよね。

ですから、高度な芸術性を求めるという一方で、みんなが音楽で心一つにすることが出来る。それから、中学校に行くと合唱コンクール等をやられておりますし、本区では、吹奏楽でも中学生の非常に高いレベルの音楽表現がされているということからも、やはり誰もが音楽が好きになるという教科書としたら、やや教育芸術社の方が、そのイメージを膨らませていく上で、工夫が上手くされていると感じました。

以上でございます。

それでは、これから投票に移りたいと思います。宜しく願いいたします。水色の【音楽】と書いてある投票用紙を出していただいて、2社の中から1社を選んでいただければと思います。宜しく願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

それでは、ただ今ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで音楽の審議については終了いたします。

それでは、続きまして、本日の最後になりますが、図画工作の選定資料について、事務局より説明をお願いします。

指導課長、どうぞ。

<指導課長 資料説明>

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、選定委員会のご報告についての何かご質問ございますか。宜しいですか。

それでは、やはり、こちらも2社ございますので、15分程度、ご覧いただいて、ご意見を頂戴したいと思います。宜しくお願いします。

<教科書閲覧>

三田教育長)

それでは、すみません、そろそろ時間が来ているようなので、審議をしたいと思います。では、白倉委員、お願い出来ますか。

白倉委員)

今の、これは両社とも、非常に工夫をされていて遜色ありませんので、今見た中では、日本文教出版で1枚の板から物を作ってみようということで、5・6年生の下巻の32ページに、少し写真が載っていて、子供が作っているもの、色々な工作物が出ています。また、1枚の板からものを取り出して、自分で考えて、大きさなどもあるのですが、これは、高学年から中学校に行ったときに、学校で工作をやるときには中々良い試み、良い考えかなと思いました。

それから、今子供向けの番組で、ピタゴラスイッチという番組が、非常に流行っているそうです。今、教科書を見ていたら、その中でも、段ボールを組み合わせて何かを流してやる、これは非常に高度ですけども、この本はもう少し本格的にやっており、段ボールのようなものは使っておらず、上手く、色々見ていると非常に楽しくて、4才の幼稚園へ通っている子供も、普通に作ってきて、ビー玉を転がして、それを私も手伝っているのですが、自分で考えて色々やっています。

それから、ここに粘土細工というものもあるんですね。粘土細工は1年からあり、1・2年、3・4年、5年とあるのですが、だんだんと子供が成長して行って、作るものが違っていき、非常に良いなということで、私はこの両者を比べたときに、先程の板位しか、違いがないと思いました。

また、色々な面で、安全な道具の使い方など、色々あり、本当に遜色ない出来だということで、選ぶのは少し難しいですが、日本文教出版の方が全体の説明について、やや丁寧でベターかと思いました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございます。

では、藤原委員、どうぞ。

藤原委員)

私は、日本文教出版は、圧倒的に子供たちの作品数が多く、見応えがあると思いました。子供たちにとっては刺激になるのではないかと思います。

また、楽しい作品、そして、面白いものが多いので、創作意欲が湧くページが沢山ありました。また、「教科書美術館」の最初のところに、ページを大きく使って見せていますが、美術館の場所を設定することで、子供たちがすばらしい美術作品に、まず触れ

で、「ほう、これすごいな」と思ったり、あるいは、もっと美術館に行ってみたいなと思わせるような、そういったページがあったのがとても印象に残りました。

また、美術館を扱っている意味では、開隆堂の方の後ろの方のページ、美術館、例えば国際美術館とか、そういったものを扱った部分がありましたけれど、外観は扱っているのですが、その中で所蔵している作品などは、特に載せていませんでした。私が残念だなと思うのは、やはり建物だけでなく、せっかく国際美術館を扱うのであれば、そこにどんな作品が所蔵されているのか。例えば、富嶽三十六景の中のどこか、例えば日本橋ですとか、何かそういうものがあつたら、子供たちが非常に興味・関心を集めるのではないかと思います。

やはり鑑賞するというのは、単にその建物がどこにあるかではなくて、そこにどういふものがあるか、そこに行くときどんなものに出会えるかという、そういうものを示していくのが良いのではないかと思います。

ただ、全く示してないわけではなく、他のページでは、そういった作品を示しているところもありましたので、一概に言えないですけれども、全体的には、私は日本文教出版の方が丁寧だし、楽しみが多くなる、そういう作りかなと思いました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございます。

では、北川委員。

北川委員)

私も、どちらを選んでも、本当に子供たちの作っているときのうわーとか、こんなになっちゃった、といった感じの写真が沢山あって、もう見ている、私の方もすごく笑顔になりました。また、この日本文教出版の1・2年生の、上の太陽のこの笑顔ですね、もう表紙から、何か楽しいよということがよく伝わってくる教科書だと思っております。

私は、こちらの日本文教出版の單元ごとに「片付け」、「気を付けよう」というものが、ほぼ必ず載っているの、毎回毎回、気を付けなくてはいけないところ、後片付けで気を付けるところという点が、きちんと明確に示されているのが、非常に丁寧に作られているなと思いました。

以上です。

三田教育長)

ありがとうございました。

では、樋口委員、いかがですか。

樋口委員)

図工においては、先程の音楽と同様に感性というところも大事でありまして、もう一方は、想像力をどれだけかき立てて、自分なりの表出にするかというところがポイントであろうと思っています。そこを大事にして見せていただきました。

例えば、くぎを打って、くぎの打ち方でも全然違うのですが、そこを少し比べてみました。日本文教出版の方は、32ページに立体型の小さな木材で沢山入れたり、色々な角度からしているというものがありました。一方、開隆堂は34ページのところですが、くぎ打ちがただ立体だけではなく、これはビー玉を転がすようなところにまで、波及していました。私はそちらの方に想像性を感じます。この単元だったらという意味です、この単元であったら、こちらの方がプラスアルファではないかと思っていますところでは。

それから、やはり図工をする上で大事なものは、安全性だと思っています。両方とも安全に対しては、大変細やかにしてくださっているところがよく分かります。ただ、違いといえば、例えばくぎの打ち方にしても、はさみの扱いにしても、実際の手が出ているのとイラストで描いてあるという、この差がありました。私は実際の手で握っていたり、くぎを打っている方がどこに力が入っているかも、感覚でとれるので、そういう意味では、私は開隆堂の方が安全性のところについて、ご配慮いただいていると感じました。日本文教出版も、配慮してないという意味では全くございませんが、2つが違うところからすれば、そういうところがあるかと思ひ、後ろのページに、それぞれの材料や道具など、そういう部分への安全性という点を大事にしたいと思ったところでは。

また、やはり開隆堂は、他の教科もそうでしたが、ユニバーサルデザインの視点というものをとても大事にしていらっしゃるので、色のやわらかさのようなものは、私は開隆堂の方をと思っているところでは。

三田教育長)

ありがとうございました。

それぞれ、皆さまが仰ってくださっているように、図工という教科はどういうところに教科としての大切なところがあるのかという、そういう意味では、やはり表現力を育てる、あるいは感性や創造性を育てるという点で、非常に奥深い教科だと思うんですね。これも残念ながら、今の流れの中では、時間がもう週に1.3時間しかないですが、だから、図工の先生が、これまでは2時間続きでやっていた授業を、図工の先生というのは、図工をやるときに、1時間毎にしか授業が出来ないという悩みを抱えているというような状況は、私ども、随分そういう痛みを感じながら、これを見せていただきました。

そういう流れの中で、でも、やはり子供たちが成長していく上で、いわゆる絵画的な領域や造形的な領域から、子供が大きな力を発揮するという意味では、非常に広い領域にわたって、力を発揮するもとなるので、それを幼児期からのスタートカリキュラムにどう連結して、このイメージーションからクリエーションへという創造性を広げていくかという点で見せてもらいました。

そういう点で、例えば表紙ですけれども、開隆堂の場合は、非常に、何かどの学年もノリノリ、子供の作品を取り上げているということで、ノリの良さというものは、やはり子供が自分の良さを発揮する、特にそういう表現が、表現力が表出するのだと思っております。そういう点で、おもしろいなと思って見ましたし、日本文教出版の方は、その子供の

成長段階といますか、そういうものの特色をよく表しているという点、これは、どれを良しとするかということではなくて、やはり、それは編集の方針だという様に思っています。

それから、開隆堂さんの1年生、「わくわくするね、空に絵を描いてみよう」という、開くと、すぐそれが出てきて、いや、私もこんな、今こういう空の写真を撮って、これを電子黒板に置いて、子供たちに電子黒板の前ですのを実演出来ますよね。そんなこと、我々の時代ですと考えるもみませんでした、今そういうことが出来るんですね。空に絵が描けたらいいなど、いいなでなくて、出来るよと。じゃあ、やってみようかと。1年生の最初にこういった内容で進める、これは開隆堂の非常に上手いタッチだと思います。

それから、日本文教出版の方は「色々な形や色なあに」と書いていて、形と色のおもしろさを、色々このように出して、そして楽しい、おもしろいなとしているという、これは同じような単元構成で、ずっと進んでいくのですが、これも魅力的な入り口だと思います。それぞれ、やはり方針として、一貫性を持っており、良いところだと思います。

それから、3・4年生の上巻で見ると、関連で、日本文教出版の方は、表紙をめくると、色の「土ライブラリー」という、2018年の「土のライブラリー」の中から、土にもこんな色があるんだと、改めて私自身も驚きましたし、自然の色というものは、本当に多種多様で、私たちがカメラで写しても写し切れない、そういうものが沢山秘められているのだなということを感じながら、少し見たものをのぞいてみようという、これは子供たちが興味津々で、4人で顔をのぞかせて、何かやろうかなという、こういう発想に立つというのはとても面白い。

また、34ページ、35ページで、繋げるという単元ですが、水玉がクモの巣に連なっている姿を捉えて、これは、確かにビーズが繋がっているように見えるし、葉っぱを色々重ねてみると、色の重なりで明暗が違ふし、同じスタイルの新幹線でも繋げて、確かに北越までいくと、こういう状況が見えます。ですから、何か面白さということ、こういうものの中から、造形のリズム、デザインについての興味とか広がっていくのだろうという点で、創造性をかき立てる、そういう紙面構成がされていると思いました。

また、開隆堂のそういう点では、私はすごく心に残ったのは、出来たらいいなというのは、3・4年生の上巻の6ページ、7ページで構成されているんですね。これは、やはりプレゼント大作戦となっており、黄色と自動車とお花とサッカーのゴールを使って、何か良いことは出来ないかなというもので、例えば下に一つだけ例があり、ありがたい気持ちを伝えるので、友達にメッセージカードを作り、この4つのものを表現して、お誕生日おめでとうと出しているものが出ています。その他、サッカーボールも置きものになるよ、ですとか、他にはこういうものを使って、何か出来るかなと創造性をイメージ化させて、そこに作品作りの面白さに誘っていくという、これも合理的思考ですよ。

こういうものを図工の中でも指導出来るということ、やはり、物を発想する、創造力をかき立てるといえるのは、そういう着想をしっかりとブレインストーミングしながら、自分

の目線に立って、物を見ると見え方が全然違うと、後ろを向いて、後ろを向く見方もあるけれど、しゃがんで、股の下から後ろを見たら、全然世界が違って見えるという、ですから、そういった絵が描ける子供、そういう自分の視点を柔軟に変えられる子供を育てるとい、こういう着想はすごくいいなと思って、私は見えていて、惚れ惚れしました。こういうのは、立派だと思います。

それから、50ページ・51ページでは、筆の使い方や、道具の使い方も出ています。ここは、先程の発言とは少し違いますが、写真ではなく、図で描いています。私は写真でなかなか撮りにくいものを図で、イラストで描くことの方が正確に表現出来る場合もあるので、一概にどちらが良いということは言えないけれども、それは、この場面の会社の狙い、編集の狙いだと思い、私は見せてもらいました。

また、絵の具と筆の使い方、同じ色でも表現の仕方が違うということ、それは、逆に今度、墨絵というところでは、高学年の日本文教出版の方で、墨の濃淡で絵を描くという、もともと日本には伝統的にあった中国から伝わってきた表現法ですけれども、今は、逆に日本人が墨の魅力など、墨を十分生かして、そういう創造活動をする人が少なくなってきたのではないかと、もう一度、その良さを見直していかなくてはいけないといった試みだと思います。どちらにしても、そういう魅力いっぱいの教材が満載されているので、どちらを使っても甲乙付けがたいというふうに思いますけれども、ただ、やはり全体の構成など、先程の音楽と同じように、どんな発達段階の子供でも、個性の違う子供でも、能力の違う子供でも、何か描いたり、想像するということはとても楽しくて、全員参加で、また出来る教科であり、なおかつ、その一人ひとりの個性がきらきら光るような授業だと思いますので、私はそういう点で、若干、日本文教出版の一貫性というのを感じました。

それでは、投票用紙、最後でございますが、白い用紙を【図画工作】のお出しただいて、2社の中から、こちらを選んでいただければと思います。宜しく願いいたします。

<委員投票、確認>

三田教育長)

ただ今、ご確認いただきました通り、過半数を超えるものがございましたので、これで図画工作についての審議を終了いたします。

以上で本日の審議を終了いたしますが、終了する前に、私の方から一言お礼を申し上げたいと思います。

まず今日、朝早くから大勢の傍聴者の皆様方、長時間にわたりまして、予定では、4時に終わる予定でしたが、10分程延びてしまいましたがお許しいただきたいと思いますが、長時間にわたりまして、熱心に傍聴していただきまして、ありがとうございました。

私どもは、一人ひとりの教育委員が自覚的に見識を持って、しっかりと教科書に向かい合っていくということで、これまで何度も何度も時間を費やして、実際に教科書を手にとってきて、その議論の結果が今日の票数でございます。また明日、引き続き、残った教科

について、審議をしてみられますけれども、こういう基本的な姿勢について、ご理解をいただくとともに、大勢の皆様方から、今日は出席されていませんがたくさんの声を寄せていただいたということも、私どもしっかり受け止めて、最後まで子供たちが本当にこの教科書によって、来年からまた伸びていけると、教育都市としまの教育が一層充実していくということを確認して、議論してみたいと思っております。心からお礼を申し上げます。

また、事務局の皆様も、長時間、本当にありがとうございました。

では、以上で今日の審議は終わりますが、事務局から何か連絡事項ございましたら、お願いいたします。

庶務課長、どうぞ。

庶務課長)

本日配付いたしました資料につきましては、事務局で保管いたしますので、恐れ入りますが、机上に置いたままにしておいていただくようお願いいたします。宜しくお願いいたします。

以上でございます。

三田教育長)

ありがとうございました。

それでは、以上で審議全てを終了いたします。

次回は8月1日、明日、木曜日、9時から、この場所、807・808の会議室で開催いたします。

長時間、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

(午後16時10分 閉会)